



# 日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(222)7207 番

96.2.9 No. 4340

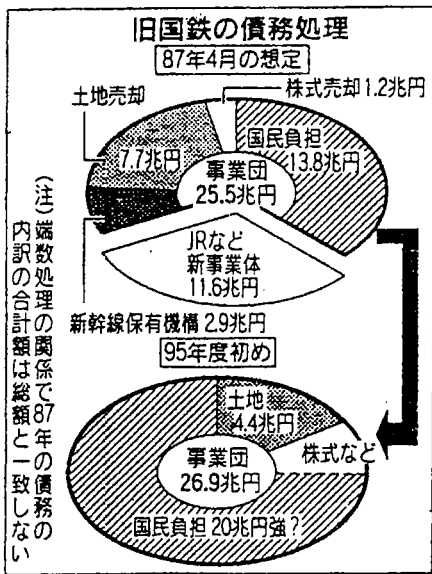
# 分割・民営化体制崩壊! 「平成9年度問題」とは? (上)

## 「十年目」の 時限爆弾!

来年三月で、国鉄の分割・民営化が強行されてから満十年目を迎える。「国鉄改革」は、十年間のうちに土地・株式を全て売却し、清算事業団は債務の整理を完了して解散、JR七社は完全民営化を果たすという計画であった。しかし、累積債務は二兆八兆円に膨れ上がり、「民営化」されたJR七社のうち四社が赤字に転落した。残すところ一年。十年目は刻々と迫っている。分割・民営化は、全面的に破産し、十年目という問題が時限爆弾のように政府・JR当局をしめあげているのである。

政府・運輸省は、十年目に向けて何らかの処理方針を策定せざるを得ないこれらの問題を「平成九年度問題」と呼び、昨秋には方針策定にあたる「特命チーム」が設置された。

## 今年夏には最終見通し



「平成九年度問題」の課題として検討されているのは、概略次のような項目である。

- ① 二兆八兆円の累積債務問題
- ② 三島・貨物の経営問題
- ③ JR七社の完全民営化問題
- ④ 清算事業団の解散・事業団職員二千人の雇用問題
- ⑤ 公的年金一元化問題
- ⑥ 固定資産税等の優遇措置の期限切れ問題

## 二兆八兆円の 国民負担!

最大の問題は、「累積債務問題」である。昨年三月の決算では二六・九兆円だった清算事業団の債務は、今年三月の決算時点では二兆八兆円を超すと言われている。マスコミでは、すでに「二〇兆円を超す国民負担」が一斉に報道されはじめています。しかも、これまでは放置し続

## 長期債務の返済正念場

### 国民負担、住専より重く

「住専」問題の処理に対する怒りが沸騰している。しかし、清算事業団の累積債務問題は、「住専」とは桁の違う金額だ。結論は、「国民負担」しかないのは目に見えている。しかし、大失業時代が迫る状況のなかで怒りの大爆発は避けられない。それでなくとも、日本の国家財政は崩壊の危機に瀕している。国債残高が二四〇兆円。「実際は三〇〇兆円と言われる借金を抱えている。支配階級にとって、「二兆八兆円問題」の表面化は、国家の存亡にかかわる問題なのである。

## 分割・民営化の 骨格が揺らぐ!

また当然にも、「二兆八兆円問題」は、清算事業団だけの問題です。また、それは「一兆円」の経常利益を豪語するJR東日本をはじめ、JR本州三社は、ばう大な借金を清算事業団に肩代わりしてもらい、ローカル線を切り捨て、三島JRや貨物も切り離して、儲かる部分だけをかすめ取ってできた会社だ。それ自体分割・民営化政策がサギでしかなかったということであるが、ここまで「私たちは一民間会社だから二兆八兆円問題とは関係ない」というような対応が許されるはずもない。

結局、「二兆八兆円問題」は、赤字に転落した三島JRや貨物をどうするかという問題ともからんで、「七分利・民営化」という分割・民営化体制の骨格・仕組みそのものの見直しにまで行き着かざるを得ない問題である。

しかもそこに、あと一年でJRの固定資産税等の優遇措置が切れるという問題、今国会に上程される年金の一元化に伴って一兆円あまりの「持参金」をJRが支払わなければならないという問題などが積み重なって、固定資産税の優遇措置が切れると、年間、JR東日本で三〇〇億円、貨物で二五億円、北海道で五〇億円の負担増になるというのだ。つまり、分割・民営化という仕組みは、すでにあらゆる面から崩れ去っているのである。

